

2011年2月25日

中国、香港、韓国への魚類輸出

NPO法人アケアカルチャーネットワーク
理事長 田嶋 猛

表1 鮮魚及び冷凍魚

暦年	国名	数量 (MT)	単価	金額 (千円)
2008	中国	94,080	169	15,868,375
	香港	1,137	1,904	2,165,310
	韓国	59,996	287	17,219,626
2009	中国	120,875	153	18,473,139
	香港	1,337	1,550	2,072,530
	韓国	80,540	177	14,264,865
2010	中国	129,930	176	22,806,585
	香港	1,856	1,327	2,462,841
	韓国	60,675	198	11,984,723

表2 2010年輸出の主要魚種

国名	魚種	数量 (MT)	単価	金額 (千円)	%
中国	サケ	55,514	280	15,554,030	68.2
	タラ	32,532	79	2,574,600	11.3
韓国	タラ	28,415	169	4,801,154	40.1

表3 活魚 (マダイ&その他)

暦年	国名	魚種	数量 (MT)	単価	金額 (千円)
2008	韓国	マダイ	5,660	642	3,632,306
	韓国	その他	1,714	952	1,632,524
2009	韓国	マダイ	4,145	585	2,423,871
	韓国	その他	1,275	740	943,738
	中国	その他	2.1	740	1,536
	香港	その他	0.2	55,358	13,452
2010	韓国	マダイ	3,012	738	2,222,029
	韓国	その他	552	957	528,641
	中国	その他	3.2	2,923	9,404

表4 マグロ類(生鮮&冷凍)

暦年	国名	数量 (MT)	単価	金額 (千円)
2008	中国	19	3,809	72,362
	香港	229	4,350	996,093
2009	中国	13	3,536	45,969
	香港	193	4,069	785,322
2010	中国	92	1,783	164,074
	香港	198	3,678	728,235

表5 クロマグロ&ミナミマグロ(生鮮&冷凍)

暦年	国名	数量 (MT)	単価	金額 (千円)
2008	中国	7.3	3,756	27,293
	香港	10.6	4,020	42,521
2009	中国	11.8	3,634	42,712
	香港	5.5	4,264	23,640
2010	中国	20.3	3,473	70,484
	香港	4.3	4,133	17,687

単価：FOB 円/kg

資料：財務省貿易統計

備考：表4 マグロ類よりも表5 クロマグロの単価が本来は高いはずであるが
抜粋資料の数量単位は表4ではMT、表5ではkgであり、集計過程の
四捨五入等の計算で2008年のように、単価が逆転したものと推察する。

日本から中国、香港、韓国へどのような魚類がどんな形態でどれ位輸出されているか？

(表1) 輸出鮮魚と冷凍魚では単価では香港が1桁高いが、数量、金額では中国が他を圧倒している。

(表2) 代表的な魚種としては、中国向けはサケとタラ(スケソウ)で金額の80%を占め、他にサバ、サンマ等、

中国向けのサケの大半は加工されてEUや米国に再輸出される。

韓国向けはタラ(スケソウ)が40%で、その他タチウオ、サバ、サンマ等がある。

(表3) 活魚輸出は、大半が韓国向けで、マダイが圧倒的に多い。

マダイ輸出は1990年頃から輸出が始まり、2000年には数量で5,660トン、金額で36億円のピークとなった。

韓国向けのその他魚種はメジナ、イシダイ、イシガキダイ、ブリ等。

香港や中国への活魚輸出は年間5トン以下で金額的にも1千万円程度で、ビジネスとしては今後に期待したい。

(表4) 日本から輸出されるマグロ類は単価が高いため刺身用である。

すなわち、いわゆるホンマグロにメバチなどを加えたもので合計で300トン程度である。

中国向けは増加傾向だが、香港向けは200トン前後で安定している。

(表5) 注目されるホンマグロだが、中国、香港合わせても30トン不足で、金額でも1億未滿と

マスコミでの話題性とは裏腹に意外と少額な取引であることが分かる。

因みに、2010年の中国向け輸出20.3トンの内訳は長崎空港から12.5トン、福岡空港から7.3トンである。

長崎県ではマグロに限らず鮮魚輸出を官民一体となり推進しており、その中心に長崎魚市(株)があるが、

輸出手法は長崎方式とも言われており他の都道府県も、興味を示している。

以上